

第2回ワークショップの振り返り

■ 建物の構造

基本構造は鉄筋コンクリート造として、外壁や内装に木材を取り入れる。

町のシンボルにふさわしい外観にする。

多目的トイレやエレベーターの設置、段差のない床などバリアフリーに配慮する。

- ・鉄筋コンクリートで外壁はレンガ、床は柔らかいもの
- ・玄関口、ドア周り（外側）にミズナラを使用（コスト上、部分的に）
- ・鉄筋コンクリート造、外壁1部・前面部は木材仕上がりとした、暖かい感じに
- ・基本は鉄筋コンクリート造で、防火の範囲内で一部木造
- ・やわらかみを出すために一部木材を使用
- ・入ってみたいくなる外観
- ・段差のない建物
- ・鉄筋コンクリート造で木材を内装として使用
- ・エレベーターは入口の付近
- ・鉄筋コンクリート造、内装を木材の使用
- ・内装は全体的に白く明るくする
- ・多目的トイレを2か所以上
- ・庁舎内は白を基調とし、床はPタイル張り
- ・外壁は通常のコンクリートで内装は木材を使用
- ・町民のパブリックリビング（公のくつろぎの場）

■ 窓口機能

来客が多い業務を正面入り口付近に集約し、ワンストップサービスを提供する。

高齢者、親子連れ、障がい者、初めてきた方など、だれでも使いやすい窓口を目指す。

- ・入口正面に大きな案内板（業務内容を表示）
- ・当麻町の様に1階フロアに全職員を配置
- ・それぞれの担当窓口が良い
- ・窓口はパーテーションで区切り、イスは2つ配置
- ・待合スペースに子ども用トランポリン、ボルダリングを作る
- ・各窓口はパーテーションで仕切り、隣の人が目に入らないようにする
- ・昭和2年の緑化運動を大きな写真で知ってもらおう（郷土資料等を展示出来るスペースを）
- ・窓口機能は中央に設置。高齢者の対応をし易くするため
- ・窓口機能はカウンターの前に、荷物兼人が座れるスペース必要、高齢者の場合1人では無い事が多い（椅子二つを置くのでは無く、台座みたいのを設置）
- ・障害福祉、高齢者福祉は入口の近く
- ・総合窓口の設置
- ・入り口から全体が見渡せるように

■ 執務機能

背の高いキャビネットや壁は設置せず、全体が見渡せるようなオープンフロアとする。

1階に執務室をできるだけ集約し、職員が機能的に働くことができる配置とする。

- ・ 執務室はすべて1階にあった方がよい
- ・ 高い所に荷物を置かない
- ・ 見透しの良い配置が良い
- ・ 基本的に1階に集約
- ・ 職員の健康と機能上、パソコンに角度をつけ、かつパソコンとは別に書類を見るためのスペース（L字型の机）
- ・ 職員のイスは黄色、机はオレンジで、各自がプライバシーを守れるようにパーテーションで区切る
- ・ 職員の机の上は、最小限のにして、他は機能的に収納する
- ・ 壁・パーテーションは、（副）町長室も含めて、見通しの良い、最低でもガラス面で個室としない
- ・ 執務室に壁やパーテーションは不要
- ・ 机はみんなが前（入口方向）を向く
- ・ キャビネットは多い方がよい
- ・ 背の低いキャビネットを配置する

■ 議会機能

議場としての風格は必要である。

議員席は固定せず、議会開会中以外は収納して会議室として使用する。

- ・ 議員席は可動式とし、通常は収納庫に入れる
- ・ 議員席は個別に設置する
- ・ 議場としての風格があったほうがよい
- ・ 会議室との併用でもよいが、議場としての機能も充実した方がよい
- ・ 議場のみのスペースは効率が悪いので、複数の使い方を考えたい
- ・ 多目的に使用するのには良いが、議場らしくする
- ・ 今回の打ち合わせ（検討委員会）をオープンに（議場を前面ガラス張りに）
- ・ 雨竜町のような備品を配置（個別の議員席）
- ・ 議場内にはカメラを設置する
- ・ 議場は会議室との併用とする

■ その他

- ・ 町民が集えるネーミングが大事
- ・ 設計者と詳細な打ち合わせのうえで機能第一と考える
- ・ 観光拠点となるスペースが必要。高校跡地、観光資源発掘も含めて
- ・ 建築物だけではなく敷地内環境整備